

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100190		
法人名	特定非営利活動法人いわのや		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	群馬県安中市大谷1088-2		
自己評価作成日	平成24年7月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成24年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在まで、利用者様のほとんどが女性ということもあり、毎日の掃除や食事作りでは、各自役割を持ち生き生きと参加される姿が目立ちます。特に毎日の食事作りは、野菜の皮むきなどの下ごしらえ等、多くの利用者様の協力で出来上がります。また、経営者の自宅を改修したホームということもあり、地域との繋がりも深く、時には旬の野菜を頂いたり、過去には散歩道にベンチも設置して頂きました。季節に応じた行事や、映画上映会、民謡会など地域のボランティアの方々の訪問、お花見や外食会などの外出も取り入れながら、メリハリのある生活作りに努めています。当ホームでは、家庭的な雰囲気大切にしながら、「グループホーム」としての意味をしっかりと理解し、1人ひとりの力に応じて自信を持って過ごされ、利用者様主体の生活環境をつくれるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は在宅時には誰もが経験してきたと思われる食事の準備・掃除・洗濯物たたみ等の家事全般について、入居後も出来る範囲で携わっている姿は「生活の場ここにあり」という利用者の思いと、サービスを受けるだけの場所とは捉えていない気持ちを感じられる。年に2回行っている利用者アンケートは職員が直接利用者と同じ向き合い思いや要望を聞きとるコミュニケーションの機会であり、結果についての情報を職員は共有し日々のケアに活かしている。又、アンケートの内容は運営推進会議でも報告し、アンケートの項目等について出席者からの助言を受け、次回の調査に反映させている。本人や家族の経済的負担が軽減できればという経営者の思いで、利用料は出来るだけ抑えた設定となっている。ボランティアによる映画上演会は、近日中に80回目の上演が予定されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての新たな理念は作成していないが、地域の中で利用者様1人ひとりが、かけがえのない存在であると考え、その人らしく生きていけるよう支援している。職員会議等で理念の共有を図っている。	運営推進会議・職員会議で理念に地域との関係性を盛り込む事を検討したが、地域との交流は当たり前に行われ、事業所の案内にも記してある理由で見直さなくても良いとの結論に至った。事業所の案内書の中に「地域生活者の一員として支援」することが明記されている。	理念とはその事業所が目指すサービスの在り方を端的に示すものであることを理解し、再度の検討をお願いしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・時には旬の野菜などを頂いている。・地域の方の芸能発表会などへの誘いを受けている。・地域の盆踊りに参加している。	地域とは野菜を頂いたり、芸能発表会に誘いを受けていたり、昨年から再開された地域の盆踊りに参加する等の交流を持っている。地元ボランティアによるホームでの映画上演会が継続して行われ、近日中に80回目の上演が予定されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の中学校で行っている職場体験学習の受け入れに協力しており、認知症の方とのふれ合いや理解を深める場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議では、サービス、日々の様子や評価への取り組み状況等を報告して話し合い、そこで出された意見はサービス向上に活かしている。・会議には、数名の利用者様も出席され意見を伺っている。	2ヶ月に1回開催し、利用者も参加して進行係を務めることもある。日常生活を記録したDVDを参加者に見てもらっている。利用者が散歩の途中疲れるとの話題に対し、区長さんが散歩道の中程に椅子を用意してくれる等、会議が事業所と地域に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議には市町村担当者が必ず出席され事業所の実情、サービスの取り組みを把握し協力関係を築けている。・サービス連絡調整会議への出席、介護保険申請の代行など。	連絡調整会議への出席や介護保険申請代行で市の担当者を訪問した際に情報交換をしている。不明なことや相談事は電話やメールで行うことが多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止委員会を設けて職員会議等で話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠をしない取り組みをしていたが、昨年、道路での転倒事故があったため、現在は職員が一人体制になる時間帯の約1時間は鍵をかけている。言葉による拘束についても話し合い、言葉遣いには注意している。	玄関に鍵をかけることは身体拘束であることを皆で再確認し、工夫や努力をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用者様、一人ひとりをかけがえのない大切な存在であると考えており、折に触れ“言葉使い”等においても指導に努めている。・関連する研修等があった場合は、積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、制度を利用されている方はおられないが、関連する研修等があった場合は、積極的に参加し理解を深めたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用者様やご家族に不安がないように十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱や各居室に苦情相談の貼り紙をしている。・利用者アンケートの実施。・毎月の介護相談員による介護相談の実施。・運営推進会議には全家族へ参加の呼びかけ、利用者様も数名参加している。	利用者の思いや要望は年に2回の利用者へのアンケート(職員が利用者と1対1の関係で項目毎に意見を聞く)により把握している。この取り組みは職員と利用者のコミュニケーションの場にもなっている。結果を推進会議の話題として提供し、助言をもらい参考にしている。家族の意向等は推進会議や来訪時に聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等において、意見や提案がないか聞く機会を設け反映させている。	管理者・職員はお互いに気兼ねなく話し合いが出来る関係になっている。新入職員も発言できるよう配慮している。課題となっていた入浴支援については職員会議での職員の提案をサービスに反映させることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・休日の要望をほぼ全て受け入れ、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者や職員のレベルアップの為に、出来る限り段階に応じた研修が受けられるよう取り組んでいる。・会議で研修報告をし、関係資料や書籍等の回覧をし内容を共有している。・勉強会開催		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・市の研修会への順番での出席。・地域密着型連絡協議会に加入しており、南部ブロック研修にも参加し交流を図っている。・グループホーム見学など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・心配事、不安な事、求めている事等がないかをよく聴き、受け止めるよう努めている。・飼い猫と暮らしたいという要望があり、一緒に暮らしている方もおられる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・相談から利用に至るまでご家族等とよく話し、不安な事、求めている事等を聴き、受け止めるよう努めている。・特に入居されて間もないうちは、電話やメール等で状況を伝えたり、要望等を聞くなど不安がないよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要に応じた対応に努めている。・その方にあったケアプランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は常に利用者様から字ふ立場にあり、様々な生活の場面でそれを大切にしている。・毎日の食事作りは、必ず利用者様と共に行い、そこから学ぶものはとても多く、職員との支えあいの関係の一つになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・利用者様に対する情報交換を積極的に行い、共に支えあう関係作りに努力している。・可能な範囲での医療受診時の付き添いの依頼。・不穏時など状況に応じてご家族が電話対応等で協力して下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人や場所との関係を出来る限り続けられるよう、ご家族等の協力も頂き、支援に努めている。・隣家の方の訪問があったり、昔からの友人を誕生会に招待するなど。	家族や友人の面会・家族でのお墓参り・馴染みの美容室の継続利用・友人との外食、誕生会に友人を招待する等これまでの馴染みの関係を大切にしたい支援を行っている。在宅時の飼い猫を引き続き飼いたいとの要望があり、これまでの生活環境を大切に考え、要望に沿って対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様同士の関係の把握に努め、お互いに支え合い、良い関係作りができるよう支援している。・関わり合い、支え合えそうな方同士、話の合いそうな方同士、席を近くにする等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居された方のご家族とメールや手紙のやりとりもしている。・過去には他施設に移られて間もない利用者様に皆で何度か会いに行ったりした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話の中でご利用者から聴き出せるよう努めている。・ケアプラン作成にあたり、改めて思いや暮らし方の希望、意向などを聴き出せるような場面を設けている。・利用者アンケートの実施。	日常生活で何気なく見られる言動から思い等を察知するように努めている。年に2回の利用者アンケート調査時の利用者職員との会話から希望や思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用等についての把握に努めている。・本人及び家族、友人、知人、サービス利用先施設等からの情報を収集して個別に記録、管理している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの総合的な状態を把握できるよう、職員それぞれが観察し、記録や申し送りにて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・サービス担当者会議では本人、ご家族、関係者等で意見を出し合い、それらを十分に反映した個人に応じた細かな介護計画を作成している。・月1回モニタリングの実施	毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直しをしているが、本人と家族の意向の確認の記録がなされていない。	3ヶ月ごとの見直しの際に、本人や家族の意向が同じであっても記録を残して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子で気になった事柄や本人の言葉は、個別記録に記入し確認し合い情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。・日々の記録等からアセスメントし実践や介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族の状況、その時々々の要望に応じて通院や買い物支援など柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・様々な地域のボランティアの方々の協力を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・納得が得られたかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援している。・希望により、訪問歯科診療やご家族の協力にてかかりつけの専門医を受診される方もいる。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。家族同行もあるが、主にホームが受診支援をしている。居宅療養管理指導として協力医の診察を月に1回受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・職場内の看護有資格者に日々の気づきを伝え、医療受診の目安や看護についての相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・早期退院に向けて本人の体調を一番に考えた上で、担当医と十分な話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・改めて重度化や終末期に向けた指針を作成し、本人、ご家族から同意を得て職員間で共有している。	「終末期に向けた指針」が作成されており、本人や家族に説明して同意を得ている。病状の変化に応じ、家族の気持ちを確認しながら関係者が連携を持って対応する事を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急時の対応について人形を作り、定期的に勉強会をしている。・ファイルを作成いつでも見れるようにしている。・救急時の対応についてのマニュアルを掲示している。・救命講習の受講。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災計画を立て年2回避難訓練や消防署立ち合いの避難訓練の実施。・毎月の防災チェック。・また地域の人々の協力を得られるよう行事や運営推進会議等を利用して働きかけている。	年に2回、防災関係会社(旭総合サービス)の協力で昼間想定避難訓練・消火訓練と夜間を想定した自主訓練と毎月防災チェック(備蓄や防災グッズの確認等)を行っている。備蓄として約3日分の粥・パン・飲料水や卓上コンロ、暖房としてホカロン等の用意がある。	消防署の協力を得た避難訓練についても検討してほしい。いざという時に慌てずに避難誘導が出来るよう、年間を通じた自主訓練の機会を持つことも検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・1人ひとりのプライバシーに十分配慮した言葉掛け、個人情報の取り扱いを行っている。 ・通信物のイニシャル化や職員間のみでわかる言葉や番号で会話や記録物の管理をしている。	排泄誘導時の言葉かけやポータブル掃除の際の配慮を大切にしている。ホールで行う会議では個人情報やプライバシー等を考慮してイニシャルや職員共通の言葉を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・わかるような説明の工夫(利用者様によっては筆談等)、どんな事でも自己決定していただけるような声かけの工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その都度、本人の希望を確認しながら、草花の世話、新聞読み、編み物、昼寝…等々、その人らしい暮らしが送れるよう支援。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時には特別なお洒落の支援。 ・2カ月に1度、馴染みの美容師の訪問や希望に応じた毛染めの支援など。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎日の食事作りや片付けは、皆で協力して行うことが日課になっており、1人ひとりの力を活かせる場や楽しい時間になるよう支援している。 ・職員が皆と一緒に食事を楽しんでいる。	利用者は菜園で収穫された野菜の下ごしらえ等の食事の準備を職員と一緒にしているが、利用者と一緒に食事を摂るのは検食者としての1名の職員である。外食などは職員も一緒に楽しんでいる。休憩時間や設備面での課題があり、検討はしているが実現が難しい。	食事は利用者と一緒に準備したものを一緒に味わいながら過ごせる貴重な時間と捉え、引き続きの検討に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・カロリー計算の勉強から大まかな栄養バランス、摂取カロリーについては理解でき、それを参考にしながら献立作りをしている。また全員の毎食の食事量、水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の歯磨きの声掛け、見守り。その方の状態によっては一部介助により、清潔の保持に努めている。 ・訪問歯科診療での医師や歯科衛生士のアドバイスを参考になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレ確認表に記録することで全員の排泄パターンの把握に努め、適時トイレへの声かけや誘導、状態に応じては夜間居室へのポータブルトイレ設置等の工夫をしている。	排泄状況を記録して一人ひとりの排泄パターンを把握、声掛けや様子を観察しての誘導により、日中はトイレでの排泄を支援している。おむつやパットは各人に適したものを検討し使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・体操等で体を動かす工夫や毎朝食時のプルーン、乳酸菌飲料の摂取、水分の勧め、利用者様の状態によっては主治医より下剤等を処方していただき、排便記録をつけて観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・毎日、お風呂を沸かし3人ずつのローテーションで入浴を行っているが、希望があればどなたでも入れるようポスターにて掲示しており、実際に毎日のように入られている方もおられる。	基本的には1日に3人の入浴となっているが、希望があれば毎日でも入浴することが出来る。このことは浴室前に掲示し知らせている。殆ど毎日入浴している利用者もいる。職員からの提案(入浴体制の工夫)により実現したものである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活の観察や状況に応じて休息を勧めたり、夜間に於いては寝る前に話を聴いたり、不眠がちの方には主治医と相談しながら安定剤の支援などもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬表を作成して掲示。・間違いのないよう薬ケースに薬名の記載をし、一人ずつ確認してから服薬。・個人の医療ノートに記録、日誌の申し送り欄に記入し職員間で共有。・症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・本人の言葉、生活歴の把握や日々の観察から役割作り(草花の世話、料理の下ごしらえ等々)や気晴らしの支援(外出、カラオケ、ボランティアによる歌や映画等)に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・外気浴や、外出等、利用者様から意見を聞き出すような声かけの工夫を心がけ、戸外に出かけられるよう支援している。・ご家族の協力により、墓参りなどに行かれたり、友人が食事に誘って下さり、外出される方もおられる。	月に1回は外食・ドライブ・お花見等で外出する機会を作っている。散歩や玄関前のベンチでの外気浴を楽しんだり、家族や友人と一緒に墓参りや食事に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を所持し、バザーで買い物や飼い猫の餌等を買う方もおられる。・家族の協力のもと、外出時など希望に応じて買いたい物が買えるよう常に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様の希望時に電話をしたり、手紙、年賀状なども勧めている。・事務的な用事でご家族への送付物がある際、手紙を入れますか？と時々聞いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用空間では、居心地良く過ごせるよう家庭的な雰囲気作りや季節感を採り入れて工夫している。・利用者様にとって不快な音や光りなどがないように配慮している。	利用者が日中の大半を過ごす居間兼食堂には季節の花を飾り、壁面には行事の写真を掲示している。台所からは調理の匂いや音が聞こえて、生活感を実感することが出来、落ち着ける居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・僅かなスペースではあるが1人になれたり、気の合った利用者様同士が過ごせるような居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際や家族面会時に利用者様と相談しながら、使い慣れたものを持ってきて頂き、居心地良く暮らせる工夫をしている。	仏壇・洋服筆筒・ぬいぐるみ・化粧品等の馴染みのものや使い慣れたものを持ち込んだり、在宅時の飼い猫と同居する方など、居心地良く過ごすための個性のある居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・生活歴や日々の暮らしにおいて一人ひとりを十分に観察し、わかる力をできる限り活かし維持できるような工夫をしている。・居室の名前、トイレ、台所等表示し、わかりやすくしている。		